

## 令和7年度第2回さぬき市男女共同参画推進協議会 会議結果

1 会議日時 令和7年9月25日（木） 14：00～16：00

2 会議場所 さぬき市役所附属棟多目的室

3 出席者 [委員] 朝倉委員 大石委員 弟月委員 横原委員 小松委員  
佐々木委員 高田委員 多田委員 筒井委員 永坂委員  
[事務局] 部長・石原 課長・山田 副主幹・田村  
[傍聴人] 0人

4 議題 (1) 令和7年度事業について  
(2) 男女共同参画につながる取組状況調査について  
(3) その他

5 資料

- ・令和7年度第2回さぬき市男女共同参画推進協議会次第
- ・資料1 令和7年度さぬき市男女共同参画週間事業実施報告書
- ・資料2 第3次男女共同参画プラン 男女共同参画につながる取組状況調査（案）
- ・資料3 令和6年度男女共同参画社会川柳俳句募集チラシ
- ・資料4 お知らせ

## 6 会議要旨

発言者	意見概要等
事務局	<開会> (14:00)
会長	ただ今から令和7年度第2回さぬき市男女共同参画推進協議会を開会します。はじめに、さぬき市男女共同参画推進協議会多田会長から御挨拶を申し上げます。
事務局	会議の進行は、「さぬき市男女共同参画推進協議会規則」に基づき、多田会長にお願いします。
会長	まず会議の公開についてです、本会議は「附属機関等の委員の構成及び会議の公開に関する指針」に基づき「原則公開」となっています。非公開の案件がない限り、公開とすることとします。まず傍聴申請について、人権推進課長から報告して下さい。
事務局	本日の傍聴は、現在のところ希望はありません。
会長	会議の途中で傍聴希望があった場合には、随時許可することとします。はじめに、本日の会議についてです。終了予定時間を16時00分としたいと思います。御協力をお願いします。では、議事（1）「令和7年度事業について」、事務局から報告をお願いします。

事務局	<資料1、3に基づき説明>
会長	<p>事務局からの説明が終わりました。最後に事務局から今年度の川柳俳句募集についての問い合わせがありましたが、まずは男女共同参画週間セミナーやパネル展に参加された皆さんに感想等をお聞きしたいと思います。また、報告書を見て、何かご意見のある方もご発言をお願いします。なお、質問があった場合には、事務局はその都度、お答えください。</p>
委員	<p>私はセミナー内のワークショップで講師をした。グループになり、皆で1枚の部屋のイラストを見て危険個所を探すというものでとても盛り上がった。皆防災に興味があることがよく分かった。</p>
委員	<p>私はセミナーに参加した。わかりやすい資料が準備されていたり、みんなで話し合う時間があったり、日頃あまり意識しないことについて考えさせられ、貴重な時間だった。しかし、女性割合がかなり高いのは気になった。毎年みられる傾向だと思うが、男性にも参加して意識を持ってもらいたい。そうでないと男女共同参画の意味が無い気がする。女性ばかり参加している状況について、今後男性にいかに取組に关心を持つてもらえるかを考えていかないと感じた。</p>
事務局	<p>男女共同参画の視点からの防災に関して、女性の参画を促進することは大きな目標の1つなので、今回女性の参加が多かったことは大変喜ばしいことだと感じています。しかし、全体的に見ると、男女共同参画は女性の問題だ、男女共同参画の考えに抵抗がある、という方もまだまだ多くいらっしゃると認識しています。そういう方たちにもどうしたら参加いただけるのか、ぜひご意見を伺えたらと思います。</p>
委員	<p>1つは講師に女性が多いことが関係しているかもしれない。もしかしたら男性の中には、講師が女性だから自分には関係ない、という感覚で捉える人もいるのかな、と思った。男性が関心を持ちそうなテーマで、男性を講師にして実施するというのはどうか。</p>
事務局	<p>昨年度2月に企業研修や女性活躍推進セミナーにおいて男性の講師から女性活躍推進、働きやすい職場の重要性について講演いただきました。男性の参加者から多くの反応がありました。</p>
会長	<p>難しいところかと思う。女性が話すと女性だけの問題と捉えられがちだけれど、男性が同じことを言うと抵抗なく受け入れられる部分があるのではないかと思う。</p>

委員	人数は少かったかもしれないが、男性の参加者があったことを私は評価している。防災というテーマだったからかと考えている。防災が男女共同参画の1つのテーマということはあまり認識されていないのではないか。防災は防災、男女共同参画は男女共同参画、という認識の人が多い。地区の防災行事は必ずといっていいほど男性が多い。女性は非常に少ないかその場所にいないというのが現状ではないかと思う。できれば男女共同参画推進協議会委員など男女共同参画に関わる人たちがその中に入って行って情報を流すことができたらと思う。男女共同参画に興味のある人たちが防災に参加するきっかけにもなる。
委員	いろんな組織などで男女共同参画についての話をしてセミナーやパネル展等に興味を持ってもらうという地道な活動しかないのかなという気がする。
委員	今年の川柳・俳句のテーマについても防災がいいのかなと思った。防災は、地震だけでなく火事や落雷、洪水、台風、土砂災害など様々だ。日頃の危機管理について作品にすることで男女共同参画との関係を意識できるのではないか。
委員	私は婦人会に入っているが、婦人会でも声かけしながら勉強する機会を大切にしたいと思っている。今回、片付け上手は防災上手という講演タイトルだった。今とてもゴミ屋敷が多くなっている。片付けが苦手だという若い方、高齢の方が増えている中で、ゴミ屋敷から火災が起きるということが何件も発生しているので大事なテーマだと思った。
委員	パネル展を見た。いろんな団体の子どもから大人までが工夫して作品を出しているのを見て、いろんな啓発につながっていると感じた。男女共同参画の「共」の漢字について、協力の「協」と書くのが合っているのではないか、と思っている。これからはこういう漢字が当てはまるような動きをしていかなくてはならないのではないかだろうか。性別だけではなく、年齢や立場、経験、経済状況等あらゆる側面で平等に生きていこうということが、パワハラやセクハラの防止、外国人の人権など、皆がともに協力して生きていくという気持ちを持つことが、これから時代を生きていくために大切だと思っている。
委員	男女共同参画の大事な部分だと思う。現在、社会に男女共同参画と逆の潮流が起こりつつある。ここまで多様性やジェンダー平等が染みわたってきているのに、そうでない動きに飲まれるようなことがあってはならないと私は強く思っている。

委員	講演タイトルを見ると、女性に防災分野への参画を促すものであるという印象を受ける。そのため男性が行き辛いということもあるのではないかだろうか。パネル展については子どもたちの作品を見に来ている人が多かった。特別展示「なるほどジェンダー」について、ジェンダーについて分かりやすくハッとするようなことも書いてあった。展示の準備は本当に大変だと思うが、せっかくの展示物をいろいろなところで活用できたらより良いのではないかと思う。今年も市民文化祭などでの展示をお願いしたい。
委員	1人でも2人でも多くの市民の目に触れるようにしてもらえるとありがたい。
委員	防災に関しては、避難所等女性の参画がとても大事だということは以前から言っていた。防災というテーマを軸にしながら、男女共同参画を進めていくというのが1つの方法だと思う。皆さん防災の意識は高いと思う。安心安全な地域を作ろうという地域防災の根本のところを大事にしながら、そこにうまく男女共同参画の視点を入れていく、そういう流れみたいなものを今回感じた。子どもの作品については、男女共同参画や男女平等などについて言葉としてだけではなく、それについて考える時間を1分でも2分でも取るのが大切だと思う。地道に進めていかなくてはいけない。
委員	若い人たちの参加をいかに促すか。開催場所について考えてみるのも大切かと思う。
委員	参加者の年齢構成的には、50代以上の人が多い。若い人も来られるよう土日にも開催しているが参加率は良くない。難しいかもしれないが若い人が子ども連れで参加できるような他のイベントとセットにすることなども考えてみるのも1つだと思う。
委員	防災に関して、先日所属する会社において、全社防災について課単位で振り返る機会があった。年に1度、各事業所のハザードマップや避難経路の確認を行う。個人でも自分の家の状況について確認する。振り返る時間の重要性を感じる。毎日ずっと考えるのはなかなか難しいと思うが、いざ何かあった時にどうしたらいいのかということを、市民の皆さんができるきっかけとなる機会を設けるのはとても良い。防災とは話が少しずれるかもしれないが、会社ではポリシーとして日々安全第一ということを言っている。自分の命は自分で守るということが徹底して言われる。ハード面においていろいろな対策をするが、1番は個人のソフト面が重要だ。大手の会社では社員に家族分の災害キットを配ったということを聞いた。そこまでは真似できなくても、水の配布などできることについて少しでもやっていくことによって、考えてもらうきっかけになるのでは、と

	思っている。行政の立場となると難しいかとは思うが、皆で考えていきたい。
会長	川柳俳句の募集については、事務局は今出た意見を参考に作業を進めてください。では、議事（2）男女共同参画社会につながる取組状況調査について、事務局から報告をお願いします。
事務局	<資料2に基づき説明>
会長	事務局からの説明が終わりました。質問やご意見、ご提案等のある方は、举手をお願いします。また、一人ひとりの質問には、事務局はその都度、お答えください。
委員	<p>気になったところ、気づいたところについて申し上げる。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・P1 若年層の参加が少ないことについて。原因としては日時、場所、テーマ、講師、いろんなことがあげられると思う。いかに皆さんに参加してもらうかを考えることが大切だと思う。</li> <li>・P15 「図書館かしきり！お父さんといっしょにたんていになろう！」について。ひとり親家庭など家族の形は多様であるため、対象について慎重に考えた方がいいのかなと思った。</li> <li>・P39 同じく「図書館かしきり！お父さんといっしょにたんていになろう！」について。参加者から家族皆で参加したいという声や、母親から参加を希望する声もあげられているのであれば、内容についてもっと話し合ってもいいのかなと思う。</li> <li>・P22 女性の職業能力開発支援について。オンライン相談できる環境を整えて周知しているが、相談実績：0件となっている。とても残念だなと思う。周知について考えなければいけないのではと思った。</li> <li>・P23 修正。「数に限られており」→「数が限られており」。</li> <li>・P25 農業委員会について。「定数18名の内、女性委員は3名となっている」とある。数字にこだわらない方がいいかもしれないが、女性委員の3名というのは果たして多いのだろうか、少ないのだろうか。また、「女性委員の登用が増えることが望ましいが、市が女性委員の登用を強制するものではなく、農業委員の選考については、原則として、地域の農業者からの推薦を尊重すべきものと考えている」について、市の役割として周知やチェックを行う必要があるのではないかと思った。</li> <li>・P27 女性活躍に関する職員研修について。参加人数27人中女性21人、男性6人だ。数字にこだわってはいけないのだが、なぜ男性職員が少ないのかと思った。内容が女性活躍だからかと思うが、とても残念だと思った。</li> <li>・P29 「ハラスメント防止に向けた教職員の注意喚起」について。「ハラスメントの定義、発生した場合の具体的な対応等、さぬき市</li> </ul>

	<p>立学校の教職員を対象としたマニュアル等がない」というところが、もちろん周知徹底はできていると思うが、気になった。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・P40 男性の料理教室について。参加者の高齢化について、継続参加はいいことだと思うが、親子クッキングやカップル等若い世代を重点的に、参加を呼びかけてはどうか。友だちどうしでも、男性どうしでも、などと幅広く募集をかけてみる。将来に備えて若いうちから家事に取り込むという視点も必要ではないかと思った。</li> <li>・P41 男性職員の育児休暇取得促進について。「休暇が取得しやすい環境作りとして、取得率の高い部署の取組状況を情報共有したい」について、取得しやすい部署とそうでないところになぜ差があるのかが気になった。</li> <li>・P45 修正。「生命（いのち）の安全教育※」の「※」印の削除。また、生きる意味も大切だが、その前に自分自身が体を守ること、加害者にならないことについてもバランスよく教育するべきじゃないのかなと感じた。</li> <li>・P47 家庭児童相談室の相談対応について。相談実績数の表記について、令和6年度報告では42「回」となっているが、第2次プランの方には同じ部分の表記が、41「人」となっている。</li> <li>・P55 ひとり親家庭の相談支援体制について。ハローワークとの連携は非常に良かったとあるにも関わらず、年に1回だけなので、もう少し増やしてもいいように感じる。</li> <li>・P58 生活上の困難を抱える人への支援について。実績として対象者が、小学校（要保護者）2人（準要保護）247人、中学校（要保護者）3人（準要保護）136人とあり、準要保護の人数が多い。要保護者と準要保護の違いと、準要保護の扱いがどうなっているのか、数字的には多いのか、少ないのか。</li> <li>・P66 市民病院での小児医療の体制について。医師不足については危機を感じている。皆で応援したいと思った。</li> </ul>
会長	担当課に確認しなければいけない項目が多いと思いますが、可能なものについて回答ください。
事務局	当課で担当している「図書館かしきり！おとうさんといっしょにたんていになろう！」についてです。事業の目的は、男女共同参画プランに定める「男性の家事・育児等への参加促進」支援です。理想は様々な対象に向けイベントを実施することだと思いますが、事務局の限られた人員ではなかなかそれが叶わないところがあります。男女共同参画の課題が多くある中で、今皆さんはどうのようお考えでしょうか。こういう課題に優先して取組むべき、こういう風に取組を進めるとよいのでは等、皆さんにご意見いただきたい思います。
会長	今の事務局からの問い合わせについて、皆さんはどう思いますか。

	最初の目標通り、男性をターゲットにするべきか、それとも、もっと誰でも参加できるような取組にするべきか、ということです。
委員	昨年度、この事業に夫と子が参加してとても楽しんだ様子だった。この事業自体は父親と子どもが対象でいいと思う。誰でも参加できるものは、また別にも何かできないか。予算を増やすのは難しいのだろうか。この事業はどのくらい続けているのか。
事務局	令和3年度からです。図書館の蔵書点検で休館になる日に合わせて行っています。
会長	それだと開催できる日も限られていますね。
事務局	参加者が喜んで帰ってくれており、参加者のアンケートを見ても父親と子どもの絆が深まっていることが感じられます。
委員	志度図書館でも寒川図書館でも開催できれば海手側の人も山手側の人も行きやすいとは思うが、寒川図書館は広さ的に厳しいかと思う。
委員	いろいろな制約があり、この企画を広げるのはなかなか厳しいようを感じる。でも、いい企画なので続けていってほしいと思う。
委員	男性の育児参画を応援していますというメッセージをもっと前面に出すと良い。趣旨をもっとわかりやすく表記する。
事務局	チラシに入れている男性育児応援といった文言を目立たせたいと思います。
委員	さぬき市はひとり親家庭の割合が高い。子どもどうしで「この前お父さんと一緒に図書館へ行ってすごく楽しかった」という話が出た時に、そなんだ、と落ち込む子どもが出てくる。男性の育児参画は当たり前になりつつある。ゆくゆくは対象等を変更してもいいかな、と思う。
委員	男性の育児休暇、育児参画をどんどん促進していって。
委員	おそらく年配の方は家事育児にほとんど参加できていない人も多いと思う。そこをターゲットにするのか、若い人をターゲットにするのか、というときに、自分の周辺の若い人は全員育休を取っている。若い人はかなり進んでいるから、例えば50代をターゲットにといってもなかなか変わらないのでは、とも思う。その時々の大きな課題について取組むことが大切だと思う。イベント内容はとても

	楽しい。
委員	男性の家事育児参画が進んできたら、男女共同参画担当課としての開催ではなく、楽しいイベントの1つとしてシフトしていったらいいと思う。
委員	もし人手不足であれば声をかけてもらえば手伝う人もいると思う。
委員	親子イベント、育児イベントなどで楽しんでいるうちに男性の参加割合が増えていけばよいと思う。
委員	なぜ図書館でイベントをやるのか、というと、親子で本に親しんでもらうためだと思う。いろんなメディアがあるが、本というものは絶対なくならないと思う。本の大切さを親から子どもへ伝える。図書館に行って本に親しむことを子どもの内からやっておくことが重要だと思う。論理的に考えるときに、スマホ等便利な道具に流れがちだけれど、本から学ぶ大切さがある。こういうイベントは大切だと感じている。そういう視点でも考えていってもらえたと思う。この話はワーク・ライフ・バランスにも関係があると感じる。今の時代は夫婦が家事を分担して、仕事もして、子育てもするというようなところがあると思う。そのワーク・ライフ・バランスの流れをみながら、こういったイベントを考えていく視点が大事だと感じている。
会長	事務局は、委員からの意見を踏まえ、公開に向け作業を進めてください。では、次に移ります。議事（3）「その他」について、事務局から何かありますか。
事務局	<資料4に基づき説明>
会長	県政知事トークに関して、何か知事に伝えてほしいというメッセージなどはありますか。
委員	香川県の人口妊娠中絶率は高い。30年前にさかのぼってもかなり高いところで推移していると思う。包括的性教育は、命の大切さから始まり、最後まできちんと説明をする、子どもたちに「生きること」「自分の身を守ること」をしっかりと伝えることが大切だ。県はどうしても1歩踏み込めていないのではないか。人工妊娠中絶で本当に辛い思いをしている人が多い県だ。その辺りのことを知事に伝えもらいたい。今、小学生でも人工妊娠中絶をしている子がいる。学校で教えなくてもSNSを通じて様々な性の情報に触れることができる。その内容が間違っていたとしても、子どもたちは衝撃的な

	話、面白い画面に引っ張られてしまうのではないか。戦隊ものの世界を現実世界に落とし込み、暴力を正義と捉え、自分が正しいと思ったら暴力が許されると思ってしまう。これからの中もたちが泣くことのないように、自分の身を守ることをしっかりと教えてほしいと知事に伝えてもらいたい。
委員	妊娠するということがどういう意味を持つかわからず、性行為を拒否できずに望まない妊娠をする女性もいる。
委員	また、もし女性が拒否しても男性の知識が低いと…。
委員	女子も男子も相手を大切にすること、自分の体を大切にすることについて教育を受けなくてはならない。
委員	現在、性教育は男女一緒に行われている。
委員	私は主に高校生を対象にデートDVの啓発を行っている。内容は、暴力とは何かというところについてだ。今多いのが精神的暴力、経済的暴力だ。なかなかそれが暴力だとは気づかないものに気づいてもらおうというのだ。もう1つ踏み込んで私がやりたいのが、性被害、性加害防止で、「生命の安全教育」だ。漫画やアニメではそこまで描かれず危機感が持てない。10代で望まない妊娠をすることも多々あると思う。女子は傷つく。妊娠が分かったところで絶望する、どうするかずっと悩む。産む人もいるが、中絶した人はひょっとしたら一生産めないかもしれない、とまた悩み、罪悪感にも苛まれる。だから危機感を持つ必要がある。また、経済的理由で出産できない人には、妊娠中から手厚い保護、補助を受けて何とか出産できるように、県全体で子どもを生み育てるということをやっていかないとどんどん人口は減っていく。もっと危機感をもってやってほしいと思っている。
委員	性教育は、一時期全国的に盛んだった。しかし、「そこまで子どもに教えるのか」というような逆風が吹き、ペースダウンした。今度は「触らぬ神に祟りなし」という風にどんどん性教育が後退していると感じる。社会の風潮があるのだと思う。私自身まずは勉強して周知できるようになりたいと思う。
会長	では次に、事務局からのお知らせについて、説明をお願いします。
事務局	<資料4に基づき説明>
会長	では、せっかくなので、ここで委員の皆さんにも活動報告やお知らせなどないか、お尋ねしたいと思います。何かある方は挙手ください

	<p>さい。</p> <p>委員 先ほどの性の話に関して、最近気になっていることがある。もし性教育について現場によって取組が違うのなら、それは県や全体として考え方の共有ができていないところがるのかなと思った。また、自分の幼い頃を考えると、マスコミ等での性的描写は今よりオープンだった。子どもは興味があるのだけれど、親に「見ちゃいけません」とよく言われていたように思う。今は、そういうもの自体を完全に遠ざける、というようなところがあると感じる。タブーにされると逆に好奇心や関心が沸いてくる。そうして予備知識が無いまま性の問題に巻き込まれる、ということもあると思う。生や死、殺人などの問題について、昔は、高齢者とも一緒に生活をしていたため、今より日常と死が結びついていたと思う。人が死ぬとはこういうことだとよくわかつっていたが、今は個人主義もあって死自体が非日常になり、人の生死についてあまり教えられていない、こういう時にはこういうふうにする、家族を亡くした人は労わる、地域でお葬式を出すなど生や死を学ぶ機会があったけれど、今は本当にそういうことがなくなつて個人で判断するしか方法がない、誰からも教えられないことがない環境になっている。ここにも向き合つていかなくては、問題は無くならないと思う。</p> <p>委員 ぼうさい国体についてお知らせしたい。私自身、防災について浅い知識しかなかつたので、今年新潟で開催されたぼうさい国体に参加してきた。全国の素晴らしい取組を見て「香川は遅れている」と感じた。企業単位でしっかり取組んでいるところもあった。食べ物にしても、寝具にしても、知らないことがいっぱいあったのだな、と感じた。来年は鳥取県の倉吉市で開催される。もし気になるという人がいたら、ぜひ参加してほしい。全国の人と触れ合い、話を聞くことができる。私は中越地震の際に活動された団体の人から話を聞くことができた。「中越地震のときの避難所と、能登地震の避難所が全く同じような状況だった。私たちは何をしていたのだろう。」という言葉が心に残つた。20年経つても、起こるか起こらないものはお金をかけないという行政トップの判断があるのなら、もう自分たちで自分たちの身を守りましょうという意識を全ての人に伝えていかなくてはいけないと思っている。</p> <p>委員 父親の家事育児参加について思うところがあるので、追加で意見させてほしい。父親世代は積極的に家事育児に関わる人が多いけれど、祖父世代の理解を深めるのは難しいと思う。父親世代が家事育児をやっているのが許せない世代だったりもするのではないか。イベントにはお父さんもおじいちゃんも参加可能とするとよいのではと思う。</p>
--	--

委員	私の夫は、仕事の関係で仕方ないけれども、子どもの運動会に1回も参加したことがなかった。しかし同世代の男性で近所のスーパーに買い物に来ている姿を何度も見る人がいた。同世代では本当に珍しかった。その年代であっても、いろんなものに参加されて、柔軟に考え方を改めてくれる人もいるとは思う。少數からでも伝えていくしかない。
会長	では、事務局からの事務連絡です。
事務局	次回会議の日程については、2月下旬頃で考えております。日程が決まりましたらご連絡いたします。次回も引き続き、どうぞよろしくお願ひいたします。また、本年度で協議会委員2年の任期が満了となります。今期は新規の委員も多く、多様な視点からいろいろとご意見くださいり感謝しております。次回の会議では、皆さんにこの2年間を振り返って思うことや、お一人おひとり今後どのように男女共同参画に関わっていきたいか等、伺いたいと思います。詳しくは次回の案内文等でお知らせします。よろしくお願ひいたします。
会長	それでは最後に、石原市民部長にあいさつをお願いします。
部長	<あいさつ>
会長	本日も熱心な議論をありがとうございました。これで令和7年度第2回さぬき市男女共同参画推進協議会を閉会します。お疲れ様でした。次回も引き続きお願ひいたします。
	<閉会> ( 16:00 )